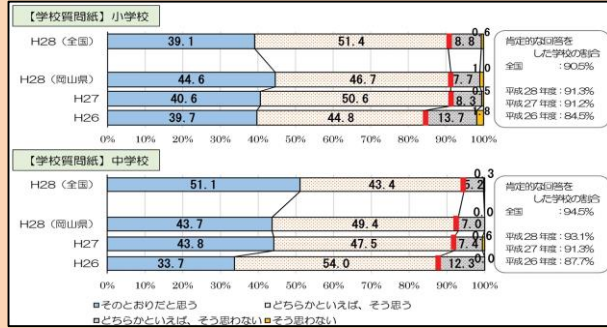


落ち着いた学習環境づくりの更なる徹底に向けて

確かな学力を身に付けさせるためには、落ち着いた学習環境づくりが何より大切です。年度始めから1か月が経過した今、「岡山型学習指導のスタンダード」の授業を支える学習基盤を基に、取組を再確認し、落ち着いた学習環境づくりの更なる徹底に向けて、全職員が一丸となった取組を充実させましょう。

岡山県では「落ち着いた学習環境づくり」が進んでいます。



左のグラフは、H28年度全国学力・学習状況調査の学校質問紙の結果で、「授業中の私語が少なく落ち着いた環境にいる」に対して肯定的な回答をした学校の割合が増加していることを示しています。新県調査では、児童・生徒質問紙に同様の項目があり、児童生徒の側からも、客観的データに基づいた検証を行うことや、個別の実態を把握することが可能になります。

これまでの取組を振り返る視点(出典:「学習指導のスタンダード」)

学習基盤を確立するための規律
P. 8、9

学び合う学習集団づくり
P. 9

授業外での学習の充実
P. 10

言葉のルール

・聞き方・話し方のルールを学校で統一します。

～発表の仕方(例)～

1. 声の大きさ・速さに気をつけて話す
2. 相手を見て話す
3. ていねいな言葉で最後まで話す「～です。」「～ます。」「～だと思います。」
4. 相手に合わせた言葉づかいで話す

～話の聞き方(例)～

1. 話をしている相手を見ながら聞く
2. だまって最後まで聞く
3. 共感できたらうなづく
4. 必要なことがあれば、メモをとる
5. 疑問に感じたことや、聞き取れなかったところは、もう一度確認する

出演



★どの子も活躍(発言)できる場面を…

- グループ学習等の中でお互いが意見を交換するなど、児童生徒一人一人が活躍(発言)する場面をつくれます。
- 「まちがえるところから勉強は始まる」という意識の下、「分からない」「できない」という児童生徒の言葉を大切にします。

居場所

★互いに認め合う関係づくりを…

- 「～ができるようになった」など、一人一人の成長した事実を見出し、具体的な言葉を児童生徒に伝えます。
- 結果だけでなく、プロセスをほめる、認める、励ますことを大切にします。

家庭学習

- ★授業とつながるように、家庭学習の課題を出しましょう。○次の授業に生かしたり、確認テストをしたりするなど、家庭学習の成果を児童生徒が実感できるようにします。
- ★家庭学習を学習習慣の定着につなげるためのチェック項目
 - 家庭学習の手引きなどを作成し、学習時間の目安等を保護者に提示しているか。
 - 保護者に連絡や相談等で、授業の様子や児童生徒の頑張りを伝えているか。
 - 家庭学習強化週間等を設定しているか。
 - 教科・学年ごとに家庭学習の統一した出題方針(内容・量)や、評価方法(成果の評価規準)を設定しているか。
 - 中学校区での家庭学習に関する意見交換の場を設定しているか。
 - 模範ノートの展示、自主学習ノートの紹介をしているか。

補充学習

- ★目標達成度の確認を行い、課題が見られる児童生徒には、個に合わせた手立てを打つことが大切です。
 - 教育計画に補充学習の時間を位置付ける等、学校全体で計画的に行います。
 - ・単元末、学期末、年度末に複合問題等を活用して、達成度を確認し、その都度、目標に達していない児童生徒には、支援を行います。
 - 地域の人材やボランティア等の外部の協力を得ることも行います。

これからの取組の視点

全職員が一丸となった取組の徹底

Target(焦点化)

- ・経年的な学校の弱みの克服
- ・定着度の低い児童生徒のための取組

Plan(計画)

- ・1学期に取り組むべきこと
- ・1年間を通して取り組むべきこと

Do(実践)

- ・全職員がすべきことを「徹底」する
- ・取組の見える化と好事例の共有

ゴールの明確化

- 「達成した具体的な姿」を共通理解しているか。
- 定量的・客観的な検証ができるか。

個々の役割の充実

- 学び合う学習集団づくりを充実させる。
- 個に応じた、必要な指導を学校生活全体を通じて行う。

今の時期、児童生徒の行動に次のような変化が見られませんか。

「ノートの字が雑になった」「家庭学習に対する意欲が下がっている」

「忘れ物が増えてきた」「作業に取りかかるまでの時間が増えた」など。

変化に気付いたら、早期に適切な指導を行うことが大切です。終礼等を活用し、生徒指導担当とも連携しながら、学級担任や教科担当に児童生徒の様子を見取る視点を伝えるとともに、指導の在り方について、全職員で共有する場を設けましょう。



岡山県マスコット「ももっち」